

認知症に優しくロンドン一丸

英国・ロンドンは、「認知症の人にやさしい首都」を目指し、さまざまな取り組みを始めている。行政、民間、支援団体が一体となった対策について、ロンドン市保健委員会事務局長のガス・ウィルソンさんと、英国アルツハイマー協会のファーン・ハワードさんに聞いた。

市担当者らに聞く

—なぜ、「認知症の人にやさしい首都」を目指すのですか？

ファーン ロンドンには、認知症と診断された人が約7万2千人暮らしています。決して少なくありません。しかし、区によって受けられる支援の量に隔たりがあります。ロンドンの魅力は「多様性」。移民も多く、市内では約300の言語・方言が使われていると言われています。人種や出身国によってさまざまなコミュニティがある。なので、支援を行き渡らせるのは容易ではありません。誰でも同じサポートが受けられるように仕組みを作りたい。

ガス ロンドンのサディク・カーン市長は、初のイスラム教徒の市長で、人権派弁護士のカリヤがあります。マイノリティーや社会的に立場の弱い人たちへの関心が高い。認知症対策は、市長のリーダーシップで進んだ一面があります。

多様な半面、雑多なロンドンが「認知症の人にやさしい首都」になったら、他の都市でも可能だというメッセージを届けられると考えています。

—取り組みの現状を教えてください



インタビューに応じる英国アルツハイマー協会のファーン・ハワードさん(左)と、ロンドン市保健委員会事務局長のガス・ウィルソンさん＝大阪市北区、井手さゆり撮影

バス・タクシー運転手、対応法学ぶ

ファーン 市内には33の区があります。3分の2の区が、認知症の人にやさしい何らかの取り組みをしています。認知症の人や家族を支える、日本の認知症サポーターにあたる「認知症フレンド」は11万6880人います。2022年までに、残りの3分の1の区も対策に乗り出し、どの区も「認知症の人にやさしいまち」を目指します。認知症フレンドも50万人にする目標です。

—どんな対策を進めているのですか？

ファーン 主に五つの分野があります。交通▽住宅▽保健・介護・救急▽企業・小売店▽社会参加です。

ガス 交通面で言えば、地下鉄やバス、タクシー運転手に認知症フレンドの研修を順に受けてもらっています。認知症の人は、乗り降りや支払いに時間がかかることがあったり、乗り物が急に動くことが苦手だったりすることを知り、適切な対応を学びます。

空港も動き出しています。市内のガトウィック空港では、認知症フレンドになった職員が大勢働いています。今年の1〜2月だけで500人以上が認知症フレンドになりました。そして、

映画館 途中で休憩 ■ サッカー試合に招待

手助けが必要な人には、目印になる首からかけるストラップを配っています。人混みや大きなアナウンスが苦手な人がいるからです。

ファーン 買い物は生活に必要ですよ。ロンドン北東部のあるショッピングセンターでは週1回、静けさを好む人のためにBGMを流さない「サイレント・ショッピングの日」を設けています。大好評です。

—「社会参加」とは、具体的にはどんなことがありますか？

ファーン 家に閉じこもることなく、外出して充実した時間を過ごす手助けです。映画館では、座席から動きやすいように照明をうすうすらとつけたまま上映したり、音に驚かないように音響を控えめたり、上映の途中で休憩を設けたりします。劇場やミュージアムも工夫しています。

ガス サッカーチームは試合に認知症の人や介護者を無料招待しています。行政、企業、支援団体などあらゆる組織がそれぞれの持ち場で、できることを積み重ねています。

—これから目指していくことは？

ファーン ボランティアの育成です。英国アルツハイマー協会は、認知症フレンドだけでなく「サイド・バイ・サイド」というマンツーマンの支援活動を進めています。認知症の人とボランティアが対面で、同じ趣味を楽しみます。散歩に行ったり買い物に出かけたりもします。

認知症の人にやさしいロンドン 対策の事例

交通

- バスや地下鉄職員が支援方法を学ぶ
- 空港では、手助けを必要とする人にストラップを配る



ガトウィック空港で配っているストラップ

住宅

- 暮らしやすい家の建設や改修を進める



保健・介護・救急

- 各機関が認知症の人の情報を共有する
- 医療と福祉サービスを密接に連携させる



企業・小売店

- 店で認知症の人に分かりやすい案内標識をつける
- 静けさを望む人のためにショッピングセンターでBGMを流さない日を設ける



社会参加をサポート

- サッカーの試合に無料招待
- 映画館では、照明や音響を工夫し認知症の人が過ごしやすい日をつくる



スタバ8店舗で「認知症カフェ」 東京・町田

「認知症の人にやさしいまちづくり」を考えるフォーラムが2月17日、大阪市であった。朝日新聞厚生文化事業団と朝日新聞社の主催。ガスさん、ファーンさんがロンドンの取り組みについて紹介した。そのほか、認知症の人の意見を探り入れた東京都町田市の活動について報告。昨秋から同市内にある大手コーヒーチェーン「スターバックス」8店舗で月1回2時間、Dカフェ(認知症カフェ)が開かれており、市民の関心を集めているという。

(聞き手・北村有樹子)

免許証の写真が嫌だ。なにかの犯人みただ。それに私はこんなにかけていない。ずっとそうだった。

先日、スーパーで買い物をしているときのことだ。突然、目のまえに店員らき女性が現れ、私の名前確認した。「あっ、はいそうです」「捜しましよ」。あせんとする。状況がつかめない。

「どうぞ。駐車場に落てたんです」。女性はニツとして左手に持っていた財布を差した。あれ私のだ。落としていたか。ぜんぜん気づいていなかった。でもどうして私

